



被服学科の美容コース開設に伴って整備された美容実習室

私たちの歴史 SHOIN点描



学園で初めてとなる高層建築の校舎が完成

女子教育の総合学園としてさらなる発展を目指してきた樟蔭学園では、平成5(1993)年に地下1階、地上8階建ての大学新館を完成。限られたキャンパスの敷地を有効に活用するために、学園で初めてとなる高層建築の校舎が建てられました。新しく建てられた大学新館には、最新のコンピュータを備えた情報処理実習室や普通教室、研究室などの教育研究用の施設だけでなく、明るい雰囲気のある学生食堂や学生ラウンジといった、学生のためのスペースも整えられました。そして、大学新館に併設された円形ホールは、コンサートや映像メディアに対応したAV設備が整えられ、授業だけでなく様々なイベントに利用できる多目的ホールとして活用されます。このホールの完成により、大学の研究成果を地域へ発信する動きが一層活発になり、公開講座の実施を中心とした大学の地域開放が推し進められました。21世紀の大学に相応しい様々な機能を兼ね備えた校舎には、今も学生たちの笑顔が溢れ、学生生活を支える中心的な建物として利用されています。

1993 大学新館と円形ホールが完成

SHOIN LABO ● 特別編

徳永正直 新学長からのメッセージ……………1

速報 幼稚園教員採用者数が全国第2位に!……………7

同窓会 ● 同窓会新会長に杉田句子さんが就任……………7

レポート ● [動物と人間の子育て] 旭山動物園園長 坂東元……………3

こもれびの窓 ● スタイリスト 徳永絵美……………5

新任者の挨拶 ● 異動・退職情報……………7

CLUB NAVI ● 高等学校 陸上競技部……………9

はぐくむ心 ● 高等学校教諭 廣畑尚……………9

INFORMATION ● 参加イベントのお知らせ……………13

we are Now ● 各校行事など……………15

SHOIN点描 ● 1993年大学新館と円形ホールが完成……………19

はばたけ、知性。





「目標を持ち、休まず、ゆっくり、着実に学ぶ」

4月1日から大阪樟蔭女子大学および大阪樟蔭女子大学短期大学部の新しい学長として徳永正直教授が、就任されました。徳永新学長は教育哲学・ドイツ教育学を専門分野として、研究者および教育者として多くの実績を積み重ねてられています。今回は徳永新学長に、これからの樟蔭について、語っていただきました。

男女対等の社会だからこそ女子大学の存在意義は大きい

1917(大正6)年に樟蔭高等女学校としてスタートした本学の建学の精神が持つ意味は、“高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成”です。以来90年以上にわたり、建学の精神を守りつつ、変化する時代にふさわしい女性を社会に送り出してきました。近頃、「なぜ今の時代に女子大学なのか」と問われることがあります。しかし、私は今の時代だからこそ、女子大学の存在意義は大きいと思っています。現代社会は男女共同参画の推進で、男女が対等であることは当然になりました。そして、本校の卒業生をはじめとして、社会のあらゆる分野では、既に多くの女性が活躍しています。しかし、男女が対等に仕事ができる社会になってきたからこそ、女性ならではの優れた感性や発想の重要性が増してきているのではないのでしょうか。そういった意味で、女子大学は、女性が持っている優れた感性を伸ばし育てられる最高の知的環境であり、その存在意義の重要性は一層高まっていると感じています。私は学長として、女子大学の存在の大切さを念頭におきながら、大阪樟蔭女子大学の優れた教育を、現代の日本にしっかりと位置付けたいと思っています。理事長は、入学式のときに「樟蔭に学ぶ者は、良きマナーの持ち主であれ」と必ず言っておられます。その良きマナーの根拠となるのは、他者に対するきめ細やかな配慮です。知性とともにも他者へのあたたかな視線を持ち、周囲



を思いやる心を育てることが、樟蔭ならではの情操教育です。知性と思いやりを合わせ持つことは、たとえ仕事や家庭でなんらかの問題に直面したとしても、周囲の人たちと一緒に解決していくための大きな力になります。そして、知性と情操を兼ね備えた女性を育成する土台となっているのが、樟蔭の大きな特徴である少人数教育です。学生数に対して教員の数が多く、学生と教員との距離も近く、きちんと丁寧にフォローする態勢が整っているのです。そして、これらの少人数教育のメリ

ットを生かしつつ、入学した初年次教育から、卒業までの教育が体系的につながった樟蔭独自のカリキュラムを充実させることによって、樟蔭の魅力をより高められると考えています。

教員に求められる優れたタクトの力

私の今の専門分野は、教育哲学とドイツ教育学ですが、実は高校時代には法学部を目指していました。しかし、浪人時代に夏目漱石の本を読んで「則天去私」の考え方に触れたことがきっかけで教育学の道を選ぶようになりました。漱石の本や研究書を読み進めるうちに、エゴイズムの克服に強い興味を抱き、法律では行為の結果は裁けるけれど、人間の心の中までは裁けない、という思いから、法学から哲学や心理学に興味に移り、京都大学の教育学部へ進学することを決めました。そして2回生の時にドイツ哲学と宗教哲学を教えていた上田閑照先生という素晴らしい先生に出会ったことで、ドイツの教育哲学を研究することになりました。今、私が研究している主なテーマは、ドイツのヘルマン・ノールなどの精神科学的教育学の研究と、教育的タクト論です。タクトには指揮者の指揮棒の意味もありますが、人間関係の原理という意味もあります。具体的にいうと、人とかかわっているときに、相手の表情や動作から気持ちの動きを敏感に感じ取りなが

ら、その場面にふさわしい事柄を判断し、相手のために働きかける能力のことです。わかりやすい例を挙げてみましょう。息子が小学校1年のときに、私は父兄として授業参観に行きました。授業では、担任の先生が子どもたちに「日曜日にあった楽しいことを話してね」と一人一人に聞いたのですが、私の息子はなぜか「言いたくない、喋りたくない」と言っていて、話すことを拒否したのです。その時先生はどうしたかという、状況をとっさに判断して「今は照れ臭くて話したくないんだね。じゃあ、授業が終わってから先生にだけ教えてくれる?」と聞いたのです。すると息子は「それならいいよ。あとで教えてあげる」と答えました。このとき先生が「なんできちんと話せないの?」と言えば、息子の心は傷ついたはずですが、しかし上手にフォローしてくれましたし、授業も滞らずにスムーズに継続されました。このように機転のきいた臨機応変で適切な対応ができる能力がタクトであり、私たち教員には優れたタクトの力が必要とされているのです。

学生と教員の共同作業“啐啄同時”で殻を割る

“^{そったくどうし}啐啄同時”という言葉聞いたことがあるでしょうか。もとは禅の言葉ですが、これは



「教育」の成否を左右する鍵をあらわす言葉でもあります。“啐”とは卵から孵ろうとしている雛が内側から殻を叩くことであり、“啄”はその動きを敏感に捉え、すかさず親鳥が外側から殻をついばんで孵化を助けることをいいます。雛と親鳥のくちばしが同時にビタッと合ったときに固い殻はきれいに割れて、雛は新しい世界に誕生するのです。私たち教職員は、一丸となってこの“啄”の動きに取り組み、学生たちの成長をサポートしていきたいと考えています。そして、学生の皆さんには、新しい世界を求める“啐”の動きが、より一層活発になることを期待しています。今の学生は、高校までの与えられる教育に慣れてしまっていて、自ら探し、発見する力が育っていませんが、私たちは学生がそれらの力を身につけることをサポートしながら、“啐啄同時”の時が来るのを待ち望んでいます。そして、このような考え方や、きめ細かな少人数教育、教職員や学生の相互の信頼関係、地域連携や地域貢献などを中心として、大阪樟蔭女子大学を「人を大切にする学び舎」として発展させたいと思っています。また、大学教員の仕事には研究と教育の両輪があります。優れた研究のないところには、優れた教育もないでしょう。しかし、優れた研究者が必ずしも優れた教育者という訳でもありません。いくら優れた研究者であっても、研究内容を学生たちにわかりやすく伝えることができなければ、教育者としては問題があると言えます。勿論、いろいろな個性を持つ先生がいることは大学の魅力のひとつです。先生方には、それぞれの研究領域や個性を生かしながら、学生ときちんと向かい合い、学問の面白さを伝える努力をしてほしいと思っています。ドイツのことわざで「何をするにしても最初は常に難しい」という教えがあります。私は、スキ



一部の顧問もしていましたが、初めてスキーに挑戦する学生を連れて行くと、最初はうまく滑れなくて嫌々やっていますが、少し努力して滑れるようになるとその楽しさを知り、自ら喜んで滑りに行くようになります。これと同じことで、学問においても、その難しさにめげないで頑張ることによって理解できるようになり、理解できることによって楽しさを知ることができます。私たち教員が、学生たちにこのきっかけを作ってあげることさえできれば、あとは自分たちの力でどんどんと伸びていくことができるのです。大学とは、教員と学生が相互に協力して、学問的な真理を明らかにするための共同体です。私たち教員も、本物の大学教育を求めて努力を続けますから、学生の皆さんも学問の真理を探求するための意欲を身につけて頑張ってください。それともう一つ。学生の皆さんには、自分の目標をできるだけ早く見つけてほしいと思っています。目的意識がなければ緊張感も生まれず、時間が充実することはありません。私たち教職員が一生懸命にサポートしますので、なるべく早く目標を見つけて、そこからは「焦ることなく」、「休まず」、「ゆっくり着実に」、そして「楽しく」勉強してください。そうすれば皆さんの力は必ず伸びていき、目標とする「なりたい自分」をきっと実現できることでしょ



坂東元

【ばんどうげん】1961年北海道旭川市生まれ。
1986年に酪農学園大学酪農学部獣医学修士課程を卒業後、同年5月から旭川市旭山動物園に勤務。
2004年から副園長を務め、2009年4月から園長を務める。旭山動物園は日本最北の動物園で、一時は閉鎖の危機に直面していたものの、動物の生活をありのまま見せる「行動展示」で注目を集め、今では日本で一番の人気動物園へと成長した。
「ちんぼんじー館」「オオカミの森」などの数々の施設デザインを担当し、様々なアイデアを実現へと導いている。
動物たちが本当にいきいきと過「せる空間で生きて欲しい」という動物への想いと、どうしたらお客さんに満足してもらえるのかという両方の視点を大切にしたい動物園創りを目指している。著書に「夢の動物園 旭山動物園の明日」「動物と向きあってみよう」などがある。

子育てに「正解」というものはありません。色々な子育ての方法の中に「幸せ」を見つけ出してください。

2月27日(土)に開催された現代GPシンポジウム「男女共同参画社会における子育て支援モデル」では、いま日本で一番人気のある動物園として有名な旭山動物園の坂東園長をお招きし、「動物と人間の育て」をテーマにご講演いただきました。今回のレポートでは、その内容の一部を紹介させていただきます

飼育員目から見た今の日本社会

今、旭山動物園には多くのお客さんが訪れますが、昔では考えられなかったことが起きています。例えば迷子です。昔はそれほど心配することではなく、周りの大人たちが子どもの安全を守ってくれるという安心感がありました。しかし今では、20分ほど探しても子どもが見つからなければ、すぐに警察を呼ぶという話になってしまいます。本来は、子どもを守り育てるのが社会であるはずなのですが、それを疑わなくてはいけなくなった現状は、社会が崩れ始めていることを表わしているのではないのでしょうか。

サル社会では、群れの秩序が崩れた時に最初に起こる現象として、子どもが育たなくなります。出生率が下がるだけでなく、子どもを守れなくなってしまうのです。例えば、サルの群れに外敵が入ってきたとき、秩序のある群れではなく、群れのリーダーは最後まで仲間を守ろうとします。しかし、秩序が乱れた群れでは、子どもたちを置き去りにして我先に逃げていくようになります。また、大人たちのケンカに巻き込まれて命を落とす子どもも出てきます。

動物の飼育員目から見れば、今の日本社会は秩序が乱れた群れのように、危機的な状況になってきているという印象を受けています。

なぜ人間には「父親」の役割が重要になったのか

最近よく「動物の世界での父親の役割」について聞かれます。哺乳類の親子関係を見ると、メスであるお母さんからしかオッパイが出



ないので、母子の関係がとても強いです。オスには、自分の子どもだけに個別に関わるといった、人間的な感覚での「父親」という存在はあまり見られません。

例えば、アザラシの赤ちゃんを写した写真を見ると、母子が寄り添っていて、少し離れたところからお父さんが顔を出していることがあります。これを見ると、お父さんは少し離れたところから子どもを見守っているように見えます。しかし、実際にはメスが子育てを終えて次の発情期が来るのを待っているのです。人間のフィルターを通して見ると、「子育てを見守るお父さん」と映りますが、実際のところは、他のオスにメスを取られないように見張っているのです。

次に人間と同じ仲間であるサルと比べてみましょう。サルは、オスもメスも自分が食べる餌は自分で採って食べる習性があり、大人同士で餌を分け合うことはほとんどありません。移動しながら生活する集団を持ち、大人のオスは群れ全体を守る役割を持っていますが、個別の子どもの父親としての役割はなく、どの子どもにも同じように接します。

一方で人間は集団で定住するようになり、共同作業で栽培や狩猟などを行いながら、それぞれの役割分担を持つようになりました。そして定住するための家を作りはじめた頃から「家族」という小集団を形成し、その小集団の中で父親という役割分担が生まれてきたのです。

しかしながら、現代の日本社会では極度な分業化が進行し、生活する上で共同作業を行う必要性がなくなってきました。共同作業の必要なくなったことによって、「家族」の規模はどんどん小さくなり、その結果として核家族化が進行しています。核家族では、父母の2人だけで子育てを行わなければならない、「子育て」に対する父親の役割の重要性が増してきているのだと思います。

ペンギンの子育てを見て思うこと

同じように核家族を形成する生き物として、鳥が挙げられます。鳥は多くが一夫一婦制で、ペンギンもそうです。ペンギンは身を守るために集団で生活していますが、お互いに関わり合いは持っていません。大都市に住んでいる人間に似ています。そして、ペンギンはオスとメスがほとんど同じ役割で子どもを育てます。なぜなら鳥は卵で子どもを産み、(母乳ではなく)餌を与えて育てるからです。つまり、卵を温めたりヒナに餌を与えたりすることは、オスでも



旭山動物園では、動物たちがいきいきと活動している姿を見ることができ、全国から大勢のお客さんが訪れています。
[写真提供:旭山動物園]

メスでも同じことができるから可能なのです。また、ペンギンは集団で生活していても、絶対に自分のヒナにしか餌をあげません。他のヒナが飢えて死にかけていたとしても、関心を払うことはありません。このようなペンギンの生き方は、今の人間社会に似ているのではないかと思います。

私たち人間は、これまでは集団で生きることによって個が守られているという意識があったと思います。しかし最近では、個の権利ばかりが主張され、全体を見渡す視点が欠けてきているのではないのでしょうか。とはいつても、私たち人間は、鳥のように割り切って生きることができないはずなんです。なぜなら、私たちはサルの仲間であり哺乳類なのですから。

「正解」ではなく「幸せ」を見つける子育てに

子育ての問題に関しても、私たちが哺乳類である以上、ペンギンのように男女が全く同じ役割を果たすことが良い方法だとは思いません。哺乳類における母子の関わりには、父子の関係とは異なる特別なつながりがあるからです。男女が共同で子育てに関わることは大切ですが、それぞれの特性がきちんと発揮できる環境を整えることが大切で、それこそが男女共同参画社会への道なのではないでしょうか。

人間は、道具や知恵を使うことによって、多様な生き方ができるようになりました。そして、何に「幸せ」を感じるかは普遍的なものではなく、個々の価値観によって異なるものだと思います。私たちが持つ様々な能力や技術を使えば、これまでの価値観だけにとらわれない「幸せ」を見つけることができるはずなんです。子育てにおいても、どれが正解ということではなく、色々な子育ての方法の中に「幸せ」があることを見つけていって欲しいと思います。

(この文章は、講演内容の一部を企画広報室がまとめたものです)

これからの予定

国際英語学科 公開公演会
インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン樟蔭公演
英語で楽しむシェイクスピア「オセロー」
 日時: 6月2日(水) 14:45~17:50
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 5月26日(水)]

「オセローの見どころ」を解説
 日時: 5月22日(土) 14:00~15:30
 解説: 鳥井 清氏 (本学 名誉教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 5月20日(木)]

健康栄養学科 公開講座
「点滴って栄養? — その歴史と医療における役割 —」
 日時: 6月12日(土) 14:00~16:00
 講師: 保木 昌徳氏 (本学 大学院 人間栄養学専攻教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 6月9日(水)]

上記各講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。
 各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
 ①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。
 〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(小阪キャンパス)
 TEL: 06-6723-8237 FAX: 06-6723-8348 E-Mail: gakujuutsu@osaka-shoin.ac.jp

心理学部 公開講座
「消費者理解のための心理学」
 日時: 7月24日(土) 10:30~12:00
 講師: 永野 光朗氏 (本学 ビジネス心理学科教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 7月22日(木)]

「心理学の誤解を解く — アートと心理学の微妙な関係 —」
 日時: 7月24日(土) 14:00~15:30
 講師: 仲谷 兼人氏 (本学 臨床心理学科教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 7月22日(木)]

「キオクの仕組み・記憶のフシギ」
 日時: 8月7日(土) 14:00~15:30
 講師: 川上 正浩氏 (本学 発達教育心理学科教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 8月5日(木)]

児童学部 公開講座
「小学校における楽しく効果的な外国語活動とは」
 日時: 8月21日(土) 14:00~15:30
 講師: 菅 正隆氏 (本学 児童学科教授)
 受講料: 無料/お申し込み: 必要 [締切: 8月19日(木)]

短期大学部 公開講座
「宇宙の年齢を求める~ハッブルの法則~」(全2回講座)
 日時: 7月31日・8月7日(土) 14:00~16:00(両日)
 講師: 門 正博氏 (本学 キャリアデザイン学科教授)
 受講料: 一人500円(2回分)/お申し込み: 必要 [締切: 7月26日(月)]
 ※当講座には、キッズルームはございません。

上記各講座は関屋キャンパス内にて開催いたします。
 各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
 ①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。
 キッズルーム: 有り(無料:要申込)[申込締切:各講座実施日の週の火曜日まで]
 〒639-0298 奈良県香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(関屋キャンパス)
 TEL: 0745-71-3168 FAX: 0745-71-3141 E-Mail: s-gakujuutsu@osaka-shoin.ac.jp

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。http://www.osaka-shoin.ac.jp



徳永絵美

とくなが・えみ
スタイリスト／株式会社スパークル所属

香川県高松市出身
2006年3月大阪樟蔭女子大学 被服学科卒業

高校時代に椎名林檎のライブの衣装を見て、何回も鳥肌が立った。誰かが言っていた「鳥肌は嘘をつかない」という言葉に従って、私の夢はスタイリストだ、と強く思う。そして、樟蔭の被服学科へ。衣装のこと、デザインことを学びながら、ダブルスクールで専門学校へも通った。堀江のショップでアルバイトをし、お客様を相手にコーディネートの実践勉強もした。卒業後は下積みのアシスタント生活。撮影小物を探して、東京中を訪ね歩いたこともある。衣装の準備で徹夜になったことも数え切れない。それでも、夢をあきらめなかった。そして25歳でスタイリストに。でも、まだまだ道は半ば、いつの日か、高校生の自分に鳥肌を立たせたようなコーディネートができるスタイリストを目指す。

◎徳永さんの作品は、
下記のホームページに掲載されています。
<http://www.sparkle-mng.jp>

自分を信じて、あこがれのスタイリストに でも、本当の夢の実現はまだまだこれから

高校時代に見たコンサートのアーティストの衣装に魅了され、スタイリストの夢を抱いた徳永絵美さん。大阪樟蔭女子大学の被服学科で学んで感性と技術を磨き、楽しいばかりではないアシスタントの下積み修業を経験しながら、一步一步階段をのぼってファッションスタイリストの夢をつかみました。でも、今はまだ夢の第一段階。厳しい世界で頼れるのは自分だけ。本当の夢の実現を目指して、今日も走り続けています。

おしゃれ好きの普通の少女が ステージ衣装で衝撃を受けた

徳永絵美さんは、東京渋谷区のスタイリスト事務所に所属する第一線のスタイリスト。

スタイリストの仕事は、モデル、俳優、タレント、アーティストなどが身に付ける衣装はもちろん、帽子、靴、アクセサリなどの小物を集めて、コーディネートすること。仕事のフィールドは、ファッション雑誌、広告、テレビ、映画のほかに、アーティストのライブやプロモーションビデオなど、多岐にわたっています。

「小さな頃から、服が大好きな子供でした。母と買い物と一緒に行って、かわいい服を買ってもらって嬉しかったり、母が作ってくれる服やセーターを着るのも楽しみだったり、やはり服好きの原点は母ですね。リカちゃん人形で着せ替え遊びをしたり、おもちゃの洗濯機でリカちゃんの服を洗ったりしていた普通の子でした」

中学生になると、雑誌で見たファッションを参考に、自分でおしゃれを楽しむようになりました。ここまでも普通のおしゃれ好きの少女。しかし、高校2年の時、友達に誘われて椎名林檎さんのライブに行って、強い衝撃を受けました。「美しさとスタイリッシュさを追求して演出されたアーティストのファッションに生でふれて、こんな世界があるのだと呆然として、何度も鳥肌が立ちました。それまでは自分がかわいくおしゃれできればいいと思っていたのですが、この日から、プロの仕事としてスタイリストを意



音楽が大好きな女の子がノリノリで歌っているイメージでコーディネートした作品「MUSIC LOVER」

識し始めました」
進学は専門学校か大学か、東京か大阪かで、いろいろ悩んだ末に、被服学科のある4年制大学というところが魅力で樟蔭を選びました。「両親としては、好きな道に進むのはいいけれど、最初から東京は遠過ぎる、そして将来を考えると4年制大学に行ってほしい、ということだったので。私は小阪キャンパスのオープンキャンパスに来て、親しみやすそうな雰囲気が気に入りました。入学後も、ひとクラスの学生数が少なく、先生と学生との距離が近く、親身になって教えていただきました。大きな大学や専門学校では、なかなかそうはいかなかったと思います」

卒業制作はユニセックスウェア スナップ式でパンツにもスカートにも

少人数だったので、ひとつひとつの授業も思い出深い。絵は苦手と思っていたのに、スタイル画の授業で描き方を一から学んでいるうちに、イメージを絵にすることができるようになりました。また、花や建築の写真を見ながら、イメージーションを広げて、新しいファッションを作る授業も刺激的でした。

「先生の『服から服は生まれぬ』という言葉が印象的で、確かに今ある服を見ながらデザインしても、マネになるだけ。それよりまったく別のものをヒントに、新しい発想をすることで斬新な服が生まれます。大学らしい奥の深い授業でした」

ゼミは被服構成学でした。「スタイリストになることは決めていましたが、苦手な服づくりを克服したかった。卒業制作にウェディングドレスを作る人が多かったのですが、私はもっと変わったものを作りたい。先生からアドバイスをもらいながらユニバーサルデザインをテーマに、試行錯誤しながらスナップボタン式の服を作りました。スナップの止め方次第でパンツにもスカートにもなり、黒と赤のリバーシブル。男女ともに着用できるユニセックスの服でした。他にはないまったくオリジナルなこの一着には、今でも愛着があります」
デザイン画を描くことでイメージを伝え、針と糸を駆使することで服の形を整えたり、じっくり実技を学んだことは、スタイリストになった今も役立っていると言います。

学業以外でも学校生活を満喫していました。「クラブには所属しませんでした。授業が終わるとみんなで学食に集まってしゃべったり、食事やカラオケに行ったりして、友達と楽しんでいました。懐かしい日々です」



仕事に欠かせない七つ道具

徳永さんは、大学に通いながら専門学校でも学び、ダブルスクールで実践的な知識も深めました。

服が好きだけでは スタイリストにはなれない

卒業後、スタイリストへの道は、アシスタントから始まります。

「個人でやっている方に手紙を書いたりしたのですが返事がもらえず、ネットで探して東京のあるスタイリスト事務所に面接に行きました。思いを伝えるには何か見せたいものがなければと、自分の作品の写真だけでなく、自分の感覚をわかってもらうために、風景や友達を撮った写真を持って行ってアシスタントに採用されました」

どんな仕事でも修業時代は厳しいものですが、個人で経験を積み、感性と現場力を磨き続けて実力を高める以外には、頼るものがないスタイリストの世界。アシスタントはとくに厳しいものです。

「アシスタントはあくまでスタイリストの手足です。〇〇を探してきて、と言われると、ネットや雑誌で調べ、メーカーやショップを駆けずり回って、なんとか見つけなければなりません。借りた靴が汚れないように100足の靴の底にテープを張るのに、朝の5時までかかり、そのままスタジオに運んで撮影に立ち会ったこともあります。そこでは、自分の意見も感性も認められないのです。ただ洋服が好き、スタイリストの仕事は楽しそうという思いだけでは、とても務まりません。でも、先輩の仕事を見てこんなスタイリングもあるのかと学ぶこともあるし、ものの調べ方や集める方法も身につきます。そして『自分ならこうするのに』という思いを、たくさんたくさん蓄積することが大切なのです」
徳永さんは、たまの休日を利用して、仕事で友達になったヘアメイク、カメラマンに協力してもらって、自分の考えたスタイリングを写真に撮り、作品としてためていきました。

そして約2年のアシスタントを経て、25歳でスタイリストとして認められました。でも本番はそれから。所属事務所から紹介される仕事以外にも、自分で積極的に売り込みをしました。これまでに、倉木麻衣さんの曲「PUZZLE/



夢の実現を目指して、頑張っている徳永さん。



徳永さんの作品の数々

Revive」のPV(プロモーションビデオ)の衣装も担当したりしながら着実に経験を重ねると共に、より広い活躍の場を求めて、事務所も移籍しました。

「広告や雑誌の仕事など、どんな分野でも全力で取り組んでいます。いちばんの夢は高校時代から思い続けている、アーティストのライブの衣装を担当することです。個人的にファンでやってみたいアーティストはいますが、まだ秘密です(笑)」
より大きな夢に向かって、徳永さんは羽ばたき続けています。

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力をお借りして、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思っております。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園企画広報室までお知らせください。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263

本学児童学科の 幼稚園教員採用者数が 全国2位になりました!

4月に発売された「大学ランキング2011年版」(朝日新聞出版発行)において、本学から幼稚園教員に採用された人数が全国で2位の数字であることが発表されました。



これは、2009年に幼稚園教員として採用された人数を各大学ごとに調べた結果

で、この年に本学から幼稚園教員に採用されたのが74名(調査時点の人数)と、全国の大学で2番目に多い人数を記録しました。この実績は、関西地区にある大学の中ではダントツのトップを誇っているほか、保育士の採用者数も関西地区で3位※(関西地区の女子大では1位)、幼稚園教員と保育士を合わせた採用者数も全国の大学で4位※(関西地区では1位)という好成績でした。大阪樟蔭女子大学児童学科では、幼稚園の先生や保育士になりたいという学生の夢を全面的にサポートし、高い確率で夢を実現できる環境を整えています。これからも、学生へのより良い教育とサポートを続け、保育や教育の場で活躍できる人材を育成していきます。

※「大学ランキング2011年版」に掲載されている数字から算出した順位です。



同窓会会長に杉田旬子さんが 就任されました!

5月16日(日)に開催された同窓会総会において、会長・副会長の任期満了に伴う改選が行われ、新しい会長として杉田旬子さん(旧姓:八尾/高校25期)が就任されることが決定いたしました。また、前会長の網野康子さんが顧問に就任され、引き続き辰馬顧問と共に同窓会活動をご支援いただくことも決定いたしました。



杉田旬子さん

会長

杉田旬子さん

副会長

北野弘子さん(旧姓:阿知原/高校10期)

加藤洋子さん(旧姓:寺尾/高校13期)

野田圭子さん(旧姓:井上/大学児童27期)

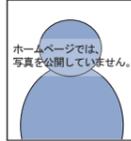
新任者の挨拶 ●異動・退職情報

新任教職員紹介

(順不同)

学芸 国文
教授

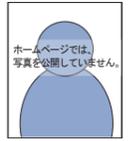
中西 進(なかにし すずむ)



[プロフィール]
文化功労者。万葉集を中心とした古代文学や日本文化の研究で知られる。奈良県立万葉文化館館長や田辺聖子文学館館長などを務める。

学芸 国文
教授

塚本 裕三(つかもと ゆうぞう)



クリエイティブ能力とプロデュース能力を身につけ、社会に出て即戦力として活躍できる教育を…。

学芸 被服
教授

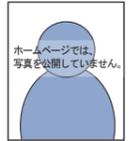
角田 憲一(かくた けんいち)



全国で2番目の4年制大学での美容コースとして、誇れるコースにしたいと思いますので、よろしく願います。

学芸 被服
講師

古賀 裕幸(こが ひろゆき)



化粧専攻・美容コースを担当します。美容の仕事は人を尊敬し、それが自分に返ってくる。ということをと共に学びましょう。

学芸 健康栄養
講師

薬原 晶子(くわばら あきこ)



皆さんと共に学び、自らも成長していきたいと思えます。よろしく願います。

高校 理科
常勤講師

坂本 恵昭(さかもと よしあき)



ご縁があつてお世話になります。少しでもお役に立てるよう努めてまいります。よろしく願います。

高校 英語
常勤講師

内田 有紀(うちだ ゆき)



伝統ある樟蔭で教壇に立てることを嬉しく思っております。一人でも英語好きな人が増えるようがんばります。

学芸 国文
教授

肥田 美代子(ひだ みよこ)



童心を忘れない人。童話が好きな人。童話作家になりたい人。そんな人達と、仲間になりたいと願っています。

学芸 被服
教授

北山 晴一(きたやま せいいち)



専門は身体社会学。衣身伝心、衣服と身体でいかに他者とコミュニケーションし、心を伝えるかを考えましょう。

学芸 被服
講師

川野 佐江子(かわの さえこ)



伝統ある学園に着任させていただきました。幸甚です。化粧品という学問の広さを、ともに実感実践していきたいです。

学芸 健康栄養
准教授

鈴木 朋子(すずき ともこ)



伝統ある大阪樟蔭女子大学で栄養士・管理栄養士養成に携わらせていただきますこと大変喜ばしく思います。

学芸 健康栄養
講師

南 明美(みなみ あけみ)



学校教育現場で培った経験を生かし、栄養教諭を目指すみなさんに必要なことを伝えていきたいと思っています。

高校 数学
常勤講師

平野 修二(ひらの しゅうじ)



教鞭をとるのは5校目になります。数学はperspectiveです。皆さんとともに探究できることを幸に思います。

中学 国語
常勤講師

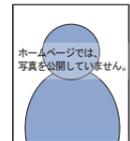
間柴 史(ましば つかさ)



お互いに成長できる時間を、ともに過ごしていきたいです。よろしく願います。

学園 英語教育センター
コーディネーター

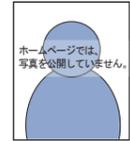
山岡 賢三(やまおか けんぞう)



中学・高校・大学生の皆さん誰もが、英語を楽しむ学習してもらえるような英語教育センターにしたいと思っています。

小阪 庶務課
係員

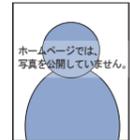
野村 紗己(のむら さき)



楽しく過ごせた樟蔭学園で働けることができ、喜んでいきます。精一杯がんばりますのでよろしく願います。

小阪 修学支援課
係員

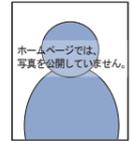
信根 佑香(のぶね ゆか)



お世話になった樟蔭学園で働けることを嬉しく思います。みなさんのお役に立てるよう一生懸命頑張りますので、よろしく願います。

小阪 入学課
主任

佐々木 傑三(ささき ひでぞう)



リクルートで企画制作を15年経験してきました。一人でも多くの高校生を獲得できるよう、創意工夫していきたいと思えます。

小阪 キャリアセンター
係員

吉浦 優子(よしうら ゆうこ)



樟蔭学園での新しい経験の一つでも多く積んで、頑張っていきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

関屋 修学支援課
係員

西尾 明子(にしお あきこ)



学生一人一人と向き合い、学生が成長できる土台作りを尽くしたいと思います。よろしく願います。

関屋 児童学部研究事務室
係員

田村 由衣(たむら ゆい)



お世話になった樟蔭で勤務することができ、とても嬉しいです。一生懸命がんばりますのでよろしく願います。

学園 英語教育センター
係員

中 郁子(なか いくこ)



学生・生徒の皆さんに、樟蔭で充実した日々を過ごしてもらえるよう努力してまいります。宜しくお願いいたします。(2009.10.1付)

小阪 修学支援課
係員

一井 武(いっせい たけし)



伝統ある樟蔭学園の今後の発展のために、精一杯頑張っていきたいと思えますので、よろしく願います。(2009.11.1付)

小阪 国際英語学科事務センター
係員

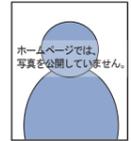
太田 幸那(おおた ゆきな)



樟蔭学園の方々や学生の皆さんに信頼して頂けるよう日々努めて参ります。どうぞよろしく願います。(2009.10.1付)

小阪 保健室
係員

藤井 寛子(ふじい ひろこ)



学生の皆さんが安心して大学生活を送ることが出来ますよう、努めたいと思えます。ご指導よろしく願います。

小阪 ITセンター
係員

辰馬 正彦(たつま まさひこ)



伝統ある樟蔭学園の更なる発展に貢献できるよう、頑張りたいと思えます。皆さま、ご指導よろしく願います。

関屋 心理学部研究事務室
係員

松木 舞(まつき まい)



私を大きく成長させてくれた樟蔭への愛と、新たな夢をもち、自分らしく頑張りますので、よろしく願います。

関屋 学生支援課
係員

藤岡 真里亜(ふじおか まりあ)



よりよい学校づくりのため、母校である樟蔭学園の力になれる様、精一杯頑張りたいと思えます。

人事異動

退任

●理事

牧野明次

●顧問

京橋邦彦

●評議員

牧野明次

杉谷義憲

北尾和信

藤原俊治

三藤亮介

●役職

大学・短期大学部/学長

森田洋司

退職(2010.3.31付)

●大学・短期大学部/教員

森田洋司

浅井 修

岩崎正子

岩田 紀

柏野健次

瓦家千代子

小池一夫

杉谷義憲

富士田邦彦

福田敦志

堀 裕

玉置育子

中野香苗

マエダ・アン・マサコ

吉田智子

●高校/教員

福田優子

藤原 瞳

松川菜織美

●中学校/教員

藤原俊治

●大学・短期大学部/職員

海老山道男

小林恵美子

中西幹子

西村 充

伊藤良子

●大学/教務助手

浦田百々子

田頭理沙

松谷奈緒美

任用

●理事

徳永正直

大江米次郎

葛谷恒彦

森田洋司

●監事

藤原準二

柿本善也

●評議員(再任を除く)

内橋歳夫

川合春路

菊野春雄

高橋靖彦

細野昌彦

●役職(再任を除く)

大学・短期大学部/学長

徳永正直

大学/副学長・心理学部学部長・

人間科学部学部長

大江米次郎

大学院/人間科学研究科研究科長

菊野春雄

採用(左記の新任教職員紹介掲載外)

●高校/教諭

今福千尋

●中学校/教諭

神農千佳

仲谷知之

●大学/職員

島松靖子

松岡奈津子

初谷真奈

異動

●大学(学芸学部)/教員

歌野 博

川瀬豊子

仲 秀和

●大学(児童学部)/教員

徳永正直

●高校/教員

岩田滋之

内橋歳夫

大喜多正仁

高木乃江

原 万里子

原田真由美

廣畑規公美

廣畑 尚

寺田和代

●中学校/教員

稲田麻衣子

小俣真理子

川浪隆之

相馬宏臣

中西幹子

小西佐知

●大学/助手

伊藤良子

●大学/教務助手

浦田百々子

田頭理沙

松谷奈緒美

修学支援課(小阪)兼務

吉田敏之

修学支援課(関屋)兼務

吉川 淳

昇任

●大学/教授

川上正浩

竹村一夫

ロバート・マラン

●大学/准教授

ジェイソン・モザー

●大学/職員

庶務課 主任

神田育美

慶 弔

お悔やみ 謹んでお悔やみ申し上げます

●●●●さん